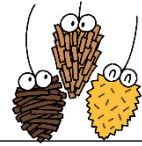




子どもたちの様子と今月のねらい



3 歳児 うさぎ組

園舎裏や散歩先で落ち葉やドングリ拾いをして、秋の自然に親しみました。室内遊びでは、2・3人で場をつくり、簡単なやりとりをしながらごっこ遊びを一緒にすることを楽しんでいます。今月は、引き続きやりとりを楽しんだり、簡単なルールのある遊びで体を動かしたりしながら、幼児同士の関わりを増やし、一緒に遊ぶ楽しさを十分感じられるようにしていきます。

<今月のねらい>

○同じ場にいる幼児と関わり、簡単なやりとりをしながら遊ぶ楽しさを味わう。

○保育者や他の幼児と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。

○冬の生活の仕方（衣服の着脱、手洗いなど）が分かり、自分でできることを自分でしようとする。

<家庭との連携>

上着のチャック上げや、袖のひっくり返しなど、季節の移行に応じて衣類の着脱が変わってきました。難しいお子さんは「先生、やって」と言葉で知らせてくれる姿も増えてきました。園では、一緒にやりながら少しずつ身に付けているところです。ご家庭でも、難しいことはやり方を伝えながら一緒にやるようにし（お子さん1人でできるところは見守り）、「自分でできた！」という思いを感じられるようにしていきましょう。

4 歳児 くま組

園庭では、幼児同士で誘い合い、助け鬼で遊んでいます。ルールを守りながら、友達と一緒に繰り返し体を動かして楽しんでいます。また、ぽっくりや一本下駄といった少し難しいことにも、何度もチャレンジしている姿があります。室内では、やりたいことを見付け、自分なりに工夫しながら製作をしたり、2～3人の友達とごっこ遊びをしたりすることを楽しんでいます。

子ども会に向けても、日頃楽しんでいる遊びを取り入れながら、学級の中でなりたい役になって動き、表現することの楽しさを感じられるようにしていきます。

<今月のねらい>

○自分の思ったことや考えたことを自分なりに表現したり、相手に伝えながら友達と関わったりして遊ぶことを楽しむ。

○物語に親しみ、役になりきって動いたり、表現したりすることを楽しむ。

○冬の生活の仕方が分かり、自分から身の回りのことをしようとする。



<家庭との連携>

友達と一緒に遊ぶことが楽しくなっている一方で、思いの違い等でトラブルになることも増えてきました。また、相手に自分の思いをうまく伝えられず我慢をしてしまう姿もあります。それぞれが、思いを出せるように援助していきます。家庭でも気になることがありましたら、担任までお知らせください。

5 歳児 そう組

ドッジボールのルールが少しずつ分かり、チームで競うことを楽しんでいます。自分で選ぶ遊びの中でも、コートを保育者が用意しておく、いろいろな友達を誘い合ったり、外野や審判を決めたりして、自分たちでゲームを進めています。

水族館への遠足に行ったことで、海の生き物づくり、海の表現遊びなどを楽しできました。そこで、子ども会は海の生き物がでてくる話にし、取組始めています。衣装づくりや大道具づくりなどにも意欲的に取り組んでいます。また、役の気持ちを動きや言葉にして伸び伸びと表現したり、同じ役の友達や同じ場面が出る友達とひとつひとつの場面をどうするか相談したりしています。そう組のみんなで「子ども会」という共通の目的に向かって、“やりたい”思いをもって進めています。

<今月のねらい>

○学級の友達と一緒に共通の目的に向かい、やり遂げた喜びや達成感を味わう。

○ルールのある運動遊びに繰り返し取り組んだり、自分なりのめあてに挑戦したりする。

○健康な生活や、病気の予防に関心をもち、意識して行動する。



<家庭との連携>

今月は、保育参観・個人面談を予定しています。保育参観では、学級全体の活動の中での友達との関わりの様子や、担任の話を聞いて理解して動く姿などをご覧いただければと思います。そのときのお子さんの姿を受けて個人面談をしますが、日頃の園やご家庭でのお子さんの様子も共有したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

ほしグループ 長時間保育

朝晩の冷え込みをより一層感じる季節となりました。おやつ後の外遊びの時間では、助け鬼やドッジボールなど、運動遊びをたくさんして体を温めながら遊んでいますが、時々肌寒く感じる時があります。子どもたちは「寒いから、外に行く前に上着を着よう。」と、必要感を感じて自分から身支度をしようとしています。冷たい風が入らないようにチャックやボタンを閉める、遊びやすくするために袖から手を出すなど、身支度の一つひとつに『必要感』をもって行うことで、自然と習慣化されていきます。

朝起きて、着る服を自分で選んだり、園に持っていくものを保護者の方と一緒に確認したりするご家庭も多いと思います。時間と手間にかかるかもしれませんが、お子さんが必要感を感じて身支度を進めていくことで、生活に必要なものの意識が身に付き、小学校以降の生活の自立にもつながります。できることから少しずつ、始めてみましょう。

